

震災がれきを活用したブロック製作実証実験見学会のご案内

～津波被害で発生したコンクリートがらを原料とし、
現地で港湾建設資材として再生する地産・地消型技術～

東日本大震災の津波被害により発生した「コンクリートがら」を再生利用する「リ・バースコンクリート工法」の実証実験を開催しますのでご案内いたします。

実証実験では、コンクリートがらを投入し、粉砕からセメント等の混合・練り混ぜを一貫して行います。こうして製造されたコンクリートについて、後日、強度の確認を行う予定です。

なお、本技術は、昨年度「東北港湾の災害復旧工事における技術の募集」に応募し、適用可能な技術として認定されています。



▲今回の実験で製作するブロック

現地見学会の概要は下記のとおりです。（詳細については別紙をご参照ください。）

記

1. 日時：平成25年4月23日（火）13:00～15:00 ※雨天順延翌日開催
2. 場所：八戸港湾・空港整備事務所 および 実証実験ヤード
3. 日程：
 - 13:00 八戸港湾・空港整備事務所集合 ※乗用車でお越し下さい。
 - 13:05 事務所会議室にて「リ・バースコンクリート工法」の説明
 - 13:30 車にて実証実験ヤードへ移動（各自）
 - 13:50 ブロック製作実証実験の見学会
 - 15:00 見学会終了

※ヘルメット、長靴等ご持参下さい。

【問い合わせ先】国土交通省 東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所

電話 0178(22)9391

副所長 な お のりひこ 長尾 憲彦

電話 0178(43)8135

前任建設管理官 さ さ き たけし 佐々木 武

八戸空港・港湾整備事務所および実証実験ヤード 案内図



集合場所：青森県八戸市沼館4-3-19 八戸空港・港湾整備事務所
 実証試験場所：青森県八戸市河原木2号埠頭（畑中建設工業施工ヤード内）

参考資料

コンクリートがらを利用した再生コンクリートの製造
ーリ・バースコンクリート工法による再資源化ー
試験実験見学会を開催します

コンクリートがらを原料とし、現地で港湾建設資材として再生する地産・地消型技術
【株式会社奥村組】

東日本大震災では大量のコンクリートがらが発生する一方、施設の復旧には大量のコンクリートが必要となっています。

そこで、コンクリートがらを原料として活用できる、リ・バースコンクリート工法を開発しました。

この工法は、リサイクル率の向上及び環境負荷の低減を目的に開発された「解体コンクリートを現場内でコンクリート用骨材に全量利用した現場再生コンクリート技術」です。

今回の実証実験では、現地に設置した専用プラントで直接、再生コンクリートを製造し、コンクリートブロックを製造します。

本技術の特長は以下の通りです。

- ① **リサイクル性の向上**：コンクリートがらをコンクリート用骨材に 100%リサイクル可能です。
- ② **環境保全の推進**：現場外への廃棄処分がなく、新たに天然骨材を使用しないため、重量物の運搬距離が短くなり、二酸化炭素排出量の低減や交通渋滞の緩和となります。
- ③ **呼び強度 24N と同等の品質**：スランプは 5～15cm、圧縮強度は 25～40N/mm² であり、「呼び強度 24N」の JIS コンクリートと同等の性能を有します。
- ④ **コスト縮減**：製造コストは、解体コンクリートの廃棄処分費と購入コンクリート費の合計に比べて同等から最大で 30%の縮減が可能です。

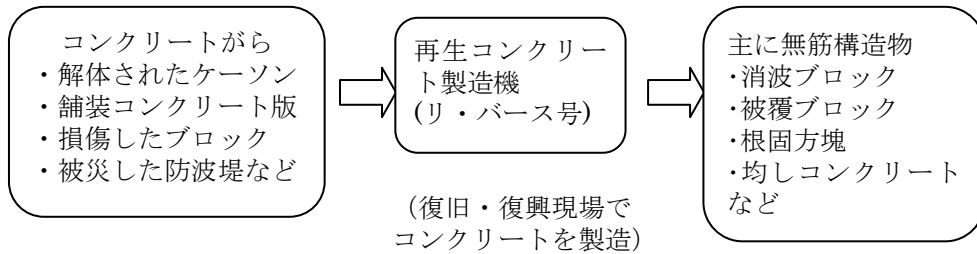
開催日時：平成 25 年 4 月 23 日（火）13:00～15:00

説明会場（集合場所）：青森県八戸市沼館 4－3－1 9 八戸港湾・空港整備事務所

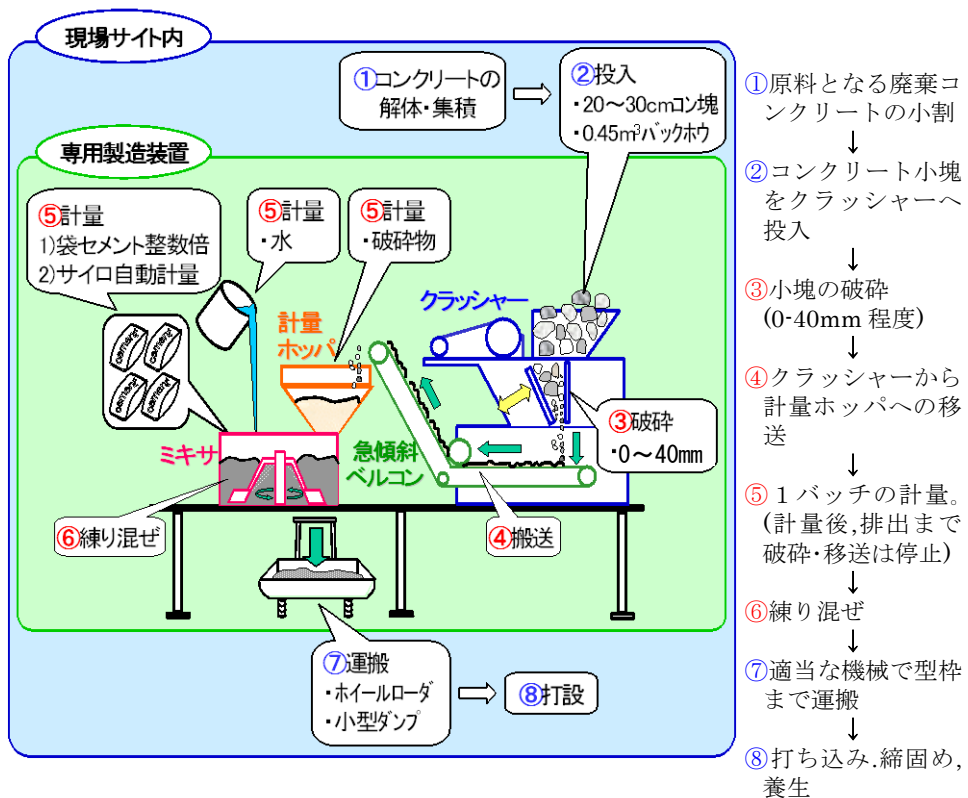
実証試験場所：青森県八戸市河原木 2 号埠頭（畑中建設工業施工ヤード内）

リ・バースコンクリート製造の概要

【製造するコンクリート製品】



【製造フロー】



【製造装置】

